



総務省 統計局 事業所情報管理課
レジスター統計係長

西川 由里子

2015年 総務省採用
同 統計局 統計調査部 国勢統計課
労働力人口統計室
2016年 内閣官房 内閣人事局 機構総括(行政組織担当)
2017年 同 内閣人事局 人事評価担当
2018年 同 内閣人事局 任用第一担当係長
2019年 現職

広がる活躍の場、広がる世界

私は平成27年に総合職事務系(理工系)として総務省に入省し、内閣官房内閣人事局への出向を経て、現在は統計局でレジスター統計という日本にはまだない統計の作成に向けた検討を行っています。

工学部出身の私は大学入学当初、将来は研究者として工学的な側面から人のためになる仕事をしていきたいと思っていましたが、大学3年生の春、就職コーナーにあった総務省のパンフレットを何気なく手に取ったことをきっかけに、総務省が数理的な思考力を持った理系の人材を求めていることを知りました。

私は苦勞して身につけた理系的な知識や思考力を活かした仕事をしたいと思うと同時に、一度きりの人生、専門以外にもいろいろな世界を見てみたいという気持ちがあったので、「理系の強みを活かしながら幅広い活躍フィールドで働く」という言葉に惹かれ、総務省の門を叩いてみるこ

とにしたのです。結果、ご縁があって総務省で働くことになったわけですが、入省して以来配属されたポストはそれぞれ全く毛色の異なる仕事で、初めて飛び込む世界も多く、学生だった頃の自分が想像もしなかったような刺激的な仕事もたくさん経験することができました。

入省前は女性行政官としてやっていけるかどうか不安もありましたが、いざ入省してみると周りには男性以上にパワフルに活躍する女性職員がたくさんいらっしゃいました。両立支援制度やテレワークなどの仕組みをうまく利用して子育てをしながら第一線で仕事をしている姿を見て、ここなら大丈夫と感じました。女性だからといって得をすることも、逆に損をすることもなく、性別に関係なく多様な活躍の場がある総務省。あなたの未来の選択肢のひとつに加えてみてはいかがでしょうか。



総務省 大臣官房 総務課
法令審査第一係

新保 厚

2018年 総務省採用
同 統計局 統計調査部 経済統計課
2019年 現職

理工系が活躍し得る場所 若手職員の視点から

私は現在、大臣官房総務課の法令審査係に配属されています。ここでは、法令(法律や政令、省令など)に関する総務省全体の取りまとめや、法令文その他文書の審査といった業務に当たっています。

「法律に代表される法令に関する業務は、法学部出身とかの人のほうが向いているし、そういった人たちがやるべき。」と思う人もいるかもしれませんが、行政の仕事というものは、法令とは切っても切れない関係にあります。例えば統計調査を実施する際にも、「統計法」が、調査において定めなければならない事項や、それらを定めるために必要なプロセスその他の規定を定めています。また、総務省自身も「総務省設置法」や「総務省組織令」といった法令によって、その役割や組織等が定められています。このように、行政の現場では、常に法令に基づき日々の業務を行っています。

さらには、「法令の業務は、文系の人の方

が向いている」という考えに、私は首肯しかねます。法令文における用語というものは、通常の日本語とは異なり、曖昧さを回避するための独特のルールがあります。例えば「その他」と「その他の」で若干ですが意味が違ってたりします。そういった曖昧さを回避した言語と聞いて何か思い当たるものはないでしょうか？私は、実はプログラミング言語が法令文と類似性を持っていると思っています。「法令文なんて、プログラミング言語と同じなんだから、むしろ理工系の方が向いているかもよ？」理工系出身なのに法令の業務？と聞いてきた人には、そう答えることにしています。

理工系の力をストレートに活かすことのできる統計行政はもちろんのこと、一見すると分からないけど、実は理工系の力を活かす得る場所が総務省にはあります。その場所を最初に見つけるのは、あなたかもしれません。



One Day Schedule

国の意思決定を、この手で支える

2018年 入省
総務省 統計局 統計調査部 消費統計課 物価統計室
河本 洋輝

「証拠に基づく政策立案(EBPM)」が注目される中、その証拠になる統計が、実際に国民の生活を左右するほどの影響力があると、実感できる1年を過ごしました。今は統計を社会に公表する身として、「社会の今を反映する」「正確な」統計の作成に尽力しています。国家の意思決定を支える情熱が、ここには確かに存在します。

8:00 登庁
今日は月に1度の「消費者物価指数」の公表日なので、早めに登庁します。登庁したら、すぐに新聞で情報収集し、業務に関係する記事があれば上司に共有します。業務メモを確認し、一日の業務スタート！

8:30 公表会見
8時半に公表後、公表対応業務が始まります。今日は、記者会見に同行します。会見の様子を報告書にまとめ、同僚や上司に報告します。業務はほかにもあり、ときには総理官邸に入ること。普段体験できない世界が、広がっています。



12:00 昼食
同僚とランチ。みんなで弁当を取り、月に1度の山場を越えたことをねぎらいます。アイスやケーキが出てくることもあります！

13:00 価格調査
「消費者物価指数」とは、全国の世帯が購入する財・サービスの価格を測る指標です。今回の統計の公表に向け、担当する品目の価格を調査します。社会に大きな影響を与える統計なので、ミスが許されません。一つ一つの品目で緊張感を持って、丁寧に価格を調査していきます。ちなみに、価格調査にはいわゆる「流行り」も考慮しています。人気商品の動向を常に確認するため、流行りに乗り遅れることがありません。



16:30 執筆原稿校正
以前提出した、国際学会の参加報告書の校正依頼が来ました。これは雑誌に掲載されるものなので、入念に修正点をチェックします。統計に関する情報発信も、我々の重要な業務の一つです。

18:15 退庁
今日の業務は全て終了！最後にメールをチェックし、緊急の業務がなければ帰宅します。オンオフを切り替え、私生活も充実させるため、帰るときにはしっかり帰り、大事な人と過ごす時間や趣味の時間を作ることを大事にしています。



新しい時代を統計データとともに

2019年 入省
総務省 統計局 総務課 企画調整係
二島 勢津子

日本の行政を支える公的統計が当たり前存在することの重要性を認識し、先人たちが構築してきた統計技術を継承しながら時代に即した統計を作っている仕事に魅力を感じました。ますます多様化する社会で新しい時代を迎え、真に必要なとされる官庁データサイエンティストをめざして日々努めています。

9:00 9:30 登庁
仕事モードに切り替えるため、今日やるべきことを頭の中で整理しながら出勤します。職場に着いたらまずメールの確認をします。締め切りの早い案件や時間の要する依頼をすばやく処理をして局内に照会をかけます。

10:00 幹部会議の準備
毎週開かれる幹部会議の資料作成と設営を行います。その際、会議での検討・決定事項や直近の重要方針を把握しながら、自分の業務や局内の各課室にどのように影響するかを考えるよう心がけています。



12:00 昼食
仲の良い同僚と庁舎近くに行きつけのお店でランチをします。たわいもない話でリフレッシュし、午後の仕事に備えます。

13:30 窓口業務・作業依頼
引き続き、メールの対応をします。連絡窓口に来た案件の初期対応は局全体に影響を与えるので、気が抜けません。慎重にチェックし、内容をかみ砕いた上で、必要な方へ対応を依頼します。依頼される相手の立場にたって、どのような文面であれば分かりやすいか、作業がしやすいかを考えます。ときには直接伺って説明することもあり、調整役の重要な役割を担っています。

16:15 公表資料確認・配達
統計調査の担当者から明日公表される調査結果の資料が届きます。大臣への説明や、記者会見にも使う資料のため、内容と部数をしっかり確認し、霞が関の合同庁舎に持ち込みます。



19:00 退庁
公表される資料の持込みが終わったら、霞が関の合同庁舎でメールのチェックをし、明日やることを整理して退庁します。退庁後は、最寄りの駅でショッピングをしたり、ときには友人とグルメ巡りをしたりしています。